

そよ風通信

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL/0568-88-0811 FAX/0568-88-0839 <https://www.pref.aichi.jp/addc/>

第6回 センターふれあいフェスティバル

9月28日(日)にセンターふれあいフェスティバルを開催しました。当日は、天候にも恵まれ、今年もたくさんの方にご来場いただきました。

フェスティバルは、青空の下で盛大なオープニングパレードとともに始まり、多くの団体によるステージや出店、ブース等によって盛大に行われました。

会場には、飲食物や手作り小物などを販売するブースのみならず、ゲームや各種体験コーナーなど、バラエティに富んだブースが並びました。また、ステージではマジックショーや歌、楽器演奏など色とりどりの催しが行われ、会場は盛り上がりました。会場はとてにぎわい、中には早々に商品が売り切れてしまったブースもありました。

出店者や出演者をはじめ、多くのボランティアの皆さまのご協力のおかげで、今年もフェスティバルを無事に終えることができました。

今年のテーマとして掲げた「つながろう みんなの手と手」という言葉どおりに、みんなで手を取り合って支え合ったことで実現できたフェスティバルだったと思います。

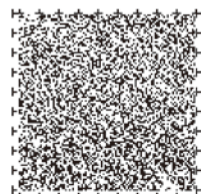
フェスティバルを通してできた地域とのつながりや関係を大切に、今後とも医療・療育・福祉の向上に貢献できるよう、職員一同励んで参ります。

ご来場いただいた皆さま、そして、フェスティバルにご協力いただいたすべての皆さま、本当にありがとうございました。



Contents

第6回センターふれあいフェスティバル	1
こぼと棟に関わる取り組みの紹介	2
新任部長の紹介	3
今年も嚙下カフェを開催しました！	3
Topics (もちつき大会／はるひの家)	4



外出レクリエーション

自然や社会とのふれあいを通して、生活に変化と潤いを持たせることを目的として実施しています。これまで、利用者と病棟職員と一緒に、緑化植物園やしだみ古墳群ミュージアム、イーアス春日井、高蔵寺アピタなどにお出かけをしました。満面の笑みで過ごす方、リラックスした表情で紅茶を飲む方など、様々な楽しみ方をして満喫していらっしゃいます。地域支援課ではタクシー業者との調整や外出時のお見送りなどを行っており、今後も携わる予定です。



長期休暇活動「わかば」

こばと棟に入所している児童に対し、学校が長期休暇中においても生活のリズムを整え、個別的な支援及び集団的アプローチを継続し、心身の成長と発達を促すことを目的としています。歌や絵本、ふれあい体操、ハンモックなど、利用者に応じた活動をしています。保育士、リハビリ、心理職などが病棟と連携して、それぞれの利用者に合わせた活動を検討し実施しています。本人が病棟スタッフと笑顔で活動する様子を見ることができました。



後見人に関する説明会

「ご家族のために今できることを考える」というテーマで、社会福祉協議会の方を講師にお呼びして、成年後見人に関する講座を開催しました。成年後見人制度のメリットやデメリット、申立ての流れや費用、相談窓口などを教えていただきました。

地域支援課は、病棟と協力しながら、ご本人とご家族が安心できる方法を、皆様と一緒に考えていけたらと感じております。



ネットワーク会議（栄養）、（リハビリ）

栄養部門では、利用者が安全な食事を摂取するために「愛知の特別食マニュアル」などについて、特別支援学校の先生方と、話し合いました。

リハビリ部門では、教員を含めたネットワーク構築について、特別支援を必要とするお子さんへのより良いサポートを目指すため、教育関係者を含めて話し合う予定です。

ホームページのご案内

こばと棟での製作やイベントなどの紹介をしています。ぜひご覧ください。



<https://www.pref.aichi.jp/addc/eachfacility/tyuuou/kobato/family.html>

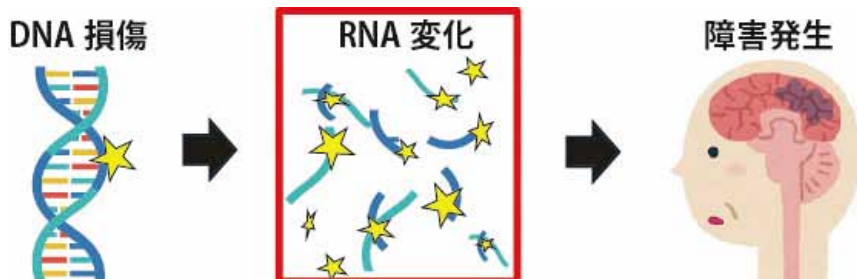
〈新任部長の紹介〉 発達障害研究所

副所長兼細胞病態研究部長兼研究企画調整科長 増田 章男

2025年4月1日付けで、発達障害研究所細胞病態研究部門の部長を拝命、10月1日より同副所長を拝命いたしました増田章男です。この場を借りてご挨拶申し上げます。

私は、内科医としての市中病院勤務を経て医学研究の世界に入りました。気が付けば、20年以上、RNAという少し聞き慣れない領域の研究に携わっています。

ご存知の様に、DNAにある遺伝情報は、RNAを介して蛋白質となり私たちを形作っています。遺伝子変異をはじめ数多くのDNA異常が発達障害の原因として同定されてきました。しかし、その病態機序の大半は、実は未解明です。近年、RNA生合成の乱れが本態ではないか、という報告が相次ぎ、注目されています。これまでの私の研究知見を活かし、障害のある方々の医療療育の発展に貢献したい、と考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



今年も嚥下カフェを開催しました! スマートホスピタル リハビリテーション部門



令和7年11月6日、愛知県医療療育総合センター中央病院の講堂にて「嚥下Cafe（摂食嚥下グループ外来）」が当院嚥下サポートチーム（DST）主催により開催いたしました。嚥下にお悩みを抱える3組の保護者や本人が参加し、大変有意義な時間を過ごしていただくことができました。各職種がそれぞれアイデアを出し合い、各ブースで得意分野に関する展示や説明・発

表を行いました。当院DSTチームのコンセプトは“食想”であり、食べることは人生の大切な行動と位置づけ、その楽しみを障害のある方でも楽しんでいただきたいと考えています。昨年に引き続きの開催となりましたが、来年以降も続けていきたいと考えています。参加希望がありましたらお気軽にお問い合わせください。



Topics 第54回 もちつき大会を開催しました

令和7年12月4日(休)に、当センターにおける毎年恒例行事の「もちつき大会」を開催いたしました。今年も近喜商事株式会社からご寄付とご協力をいただき、54回目となるもちつき大会を開催することができました。

おもち作りは、生のもち米を蒸すところから、蒸し上がったもち米を杵と臼でつき、そしてつき上がったおもちの加工まで、すべてその場で職員の手作業で行いました。

もちをつく際の杵の使い方にはコツがあるようで、近喜商事社員の皆さまにご指導をいただきながら、職員一同、力と思いを込めてもちつきを行いました。

食中毒等の対策上、一般の方にはガラス越しにもちつきの様子をご覧いただきました。



つきたてのおもちは、ちぎって丸めてあんこを包み、きなこをまぶして外来患者さん等に配布しました。

「もちつき」という日本の伝統的な行事を今後も長く続けていけるとよいですね。

近喜商事株式会社の皆様、多大なるお力添えをいただきありがとうございました。

※保健所指導の下、感染症及び食中毒対策をおこなって開催しています。

Topics はるひの家

はるひの家では児童の自立支援および食育の一環として土日や長期休みに調理実習を行っています。これまでにホットケーキや牛乳寒天、ゼリーなどを作り、おやつ



の時間に美味しくいただきました。季節に合わせて夏にはかき氷、秋には月見団子づくりなど四季を感じられる

メニューになるように工夫しています。

また、今年度から運用部企画事

業課と合同で行う調理実習に試みました。自分たちで考

えて意思決定できる場としてこども会議を計画し、その中

で児童たちが話し合い、メニューを決定しました。今後もこ

の活動を広げられるように努めてまいります。



外来の詳細については、ホームページでご確認ください。

外来担当医表 <https://www.pref.aichi.jp/addc/eachfacility/tyuuou/time/index.html>

予約について https://www.pref.aichi.jp/addc/eachfacility/tyuuou/clinic/index_medical.html#p_11

交通アクセス <https://www.pref.aichi.jp/addc/access/index.html>